

V. 運営

22. 定款委員会

委員長 武 冨 紹 信

本年度は定款および同施行細則の変更などについての諮問事項がなかった。

23. 財務委員会

委員長 佐 田 尚 宏

1. 令和3年度予算の修正の件

本年度もコロナ禍のため、各種委員会がWeb会議システムによる開催となった他に、外科専門医試験の大部分の実施を来年度に延期したり、各種セミナーをすべてE-learning化したりすることで、事業内容が当初の予定と大幅に異なることとなったので、EY新日本有限責任監査法人の助言を受けて、事業計画書と収支予算の修正を行い、収入が10億2,022万9,737円、支出が9億9,326万7,182円の見込みとなり、収支差額は2,696万2,555円の黒字を見込むこととなった（当初は1,002万9,159円の黒字の見込み）。

2. 令和3年度決算の件

令和3年度財務諸表を作成し、独立監査人であるEY新日本有限責任監査法人と本学会監事の監査を経て理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、定時社員総会に上程する（資料別添）。

3. 令和4年度予算の件

令和4年度予算について、委員会で審議し、理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、令和4年2月1日からその予算に沿って業務を執行している（資料別添）。

また、コロナ禍のために令和4年度も事業活動などが流動的なので、令和2、3年度に引き続いて、必要に応じて予算修正を行う予定である。

4. 資産除去債務の件

新しい事務所の定期建物賃貸借契約書に原状回復義務が明記されているため、EY新日本有限責任監査法人から、原状回復費用（約2,660万円の見積）について、所定の資産除去債務の会計処理を行う必要がある旨の指導を受けた。

そこで、賃貸借契約期間が5年であることを考慮して、5年の償却処理で計上することとした。

5. 特定資産としての基金化の件

黒字決算が続いたため、流動資産の現金預金が増えて、10億円を超える見込みなので、EY新日本有限責任監査法人から、まずは2億5,000万円程度を、用途目的を定めた上で特定資産として基金化することが望ましい旨の指導を受けた。

なお、現時点で既に「定期学術集会開催」「若手外科医育成・交流」「機関誌刊行」の3種の基金があり、過去には「手術症例データベース」と「外科専門医制度」の基金を取り崩してNCDに拠出したこともあ

る。

そこで、新たに「日本外科学会雑誌オンラインジャーナル基金」として5,000万円、「デジタル化推進基金」として1億5,000万円、および「大規模災害時運営基金」として1億円を、それぞれ特定資産化することとした。なお、各基金の取り扱いの施行規定は資料1～3のとおりである。

資料 1

一般社団法人日本外科学会オンラインジャーナル基金に関する施行規程

(目的)

第 1 条 この規程は、この法人（以下、本会と略記）のオンラインジャーナル基金（以下、基金と略記）に関して必要な事項を定め、その適正な執行を確保することを目的とする。

(使途)

第 2 条 基金の使途は、定款第 4 条第 2 号の事業の実施に限定する。

(構成)

第 3 条 基金は、次の各号の財産をもって構成する。

- 1) 基金とすることを指定して寄附された財産
- 2) 理事会が基金に繰り入れることを決議した財産

(管理運用)

第 4 条 基金は、元本が回収できる見込みが高く、かつ、高い運用益が得られる方法で、固定資産として管理する。

(充当)

第 5 条 基金の計画的な取り崩しによって事業の実施に充当するものとし、運用益は基金全額を費消する年度において、その全額を執行する。

2 前項の取り崩し額及び運用益の額は、予算に計上しなければならない。

(処分)

第 6 条 事業の実施上、やむを得ない事由のため、予算に計上した計画的な取り崩し額を超えて基金及び運用益の全部又は一部を処分しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(規程の変更)

第 7 条 この規程は、理事会の決議によって変更することができる。

(疑義の処理)

第 8 条 この規程の施行について疑義が生じたときは、理事会の決議によって決する。

(規程の廃止)

第 9 条 この規程は、理事会の決議によって廃止することができる。

附 則

1 この規程は、令和 4 年 3 月 28 日から施行する。

資料 2

一般社団法人日本外科学会デジタル化推進基金に関する施行規程

(目的)

第 1 条 この規程は、この法人（以下、本会と略記）のデジタル化推進基金（以下、基金と略記）に関して必要な事項を定め、その適正な執行を確保することを目的とする。

(使途)

第 2 条 基金の使途は、定款第 4 条各号の事業のデジタル化の実施に限定する。

(構成)

第 3 条 基金は、次の各号の財産をもって構成する。

- 1) 基金とすることを指定して寄附された財産
- 2) 理事会が基金に繰り入れることを決議した財産

(管理運用)

第 4 条 基金は、元本が回収できる見込みが高く、かつ、高い運用益が得られる方法で、固定資産として管理する。

(充当)

第 5 条 基金の計画的な取り崩しによって事業の実施に充当するものとし、運用益は基金全額を費消する年度において、その全額を執行する。

2 前項の取り崩し額及び運用益の額は、予算に計上しなければならない。

(処分)

第 6 条 事業の実施上、やむを得ない事由のため、予算に計上した計画的な取り崩し額を超えて基金及び運用益の全部又は一部を処分しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(規程の変更)

第 7 条 この規程は、理事会の決議によって変更することができる。

(疑義の処理)

第 8 条 この規程の施行について疑義が生じたときは、理事会の決議によって決する。

(規程の廃止)

第 9 条 この規程は、理事会の決議によって廃止することができる。

附 則

1 この規程は、令和 4 年 3 月 28 日から施行する。

資料 3

一般社団法人日本外科学会大規模災害時運営基金に関する施行規程

(目的)

第 1 条 この規程は、この法人（以下、本会と略記）の大規模災害時運営基金（以下、基金と略記）に関して必要な事項を定め、その適正な執行を確保することを目的とする。

(使途)

第 2 条 基金の使途は、大規模災害時にあっても、定款第 4 条各号の事業が支障なく実施できるために限定する。

(構成)

第 3 条 基金は、次の各号の財産をもって構成する。

- 1) 基金とすることを指定して寄附された財産
- 2) 理事会が基金に繰り入れることを決議した財産

(管理運用)

第 4 条 基金は、元本が回収できる見込みが高く、かつ、高い運用益が得られる方法で、固定資産として管理する。

(充当)

第 5 条 基金の計画的な取り崩しによって事業の実施に充当するものとし、運用益は基金全額を費消する年度において、その全額を執行する。

2 前項の取り崩し額及び運用益の額は、予算に計上しなければならない。

(処分)

第 6 条 事業の実施上、やむを得ない事由のため、予算に計上した計画的な取り崩し額を超えて基金及び運用益の全部又は一部を処分しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(規程の変更)

第 7 条 この規程は、理事会の決議によって変更することができる。

(疑義の処理)

第 8 条 この規程の施行について疑義が生じたときは、理事会の決議によって決する。

(規程の廃止)

第 9 条 この規程は、理事会の決議によって廃止することができる。

附 則

1 この規程は、令和 4 年 3 月 28 日から施行する。

24. 情報・広報委員会

委員長 田 尻 達 郎

1. 会員向けオンラインサービスの件

現在、会員向けオンラインサービスの登録者数は全会員 40,562 名のうち 35,339 名である。

会員情報検索・修正システム，外科専門医システム，学術集会参加履歴登録システム，各種申請システムなどを運用・管理している。

なお、総務委員会などからの提案を受けて、次年度よりシステムの全面改修に着手することとした。

2. ホームページのリニューアルの件

令和3年10月にホームページをリニューアルが完了した。また、ホームページのリニューアル作業の一環として、本学会のロゴデザインの使用ガイドラインを設定した。

引き続き、英語ページの内容の充実化の作業を進めている。

3. 厚生労働科学研究からの依頼の件

当該研究班から「救急医療等における基盤整備のための情報項目等の標準化に関するお願い」が依頼されたので、追加でリストアップを希望する項目を回答した。

25. NCD 連絡委員会

委員長 湊 谷 謙 司

- 1) NCD から「NCD 自施設データ利用申請」における外科領域のデータの利用申請について照会を受けた場合は、適宜「可否」を判断して、回答を行っている。
- 2) 令和3年8月付でNCD 術式の改定が行われたので、従来どおり専門医制度委員会に「外科専門医修練カリキュラム」などとの紐付け作業を依頼した。
- 3) 資料1~2のとおり、本会からNCDに、①症例のWeb登録(1~12月)に合わせて、会員施設のデータ入力支援業務を目的とする(営利目的外)症例アップロード用CRFの仕様の公開、及び、②症例アップロード用CRFの選択項目リストがデータとして公開しておらず、電子カルテ内でのリスト作成に負担が大きい(コピー&ペースト機能が利用できることで負担が軽減されます)こと、の2点を検討いただき、前向きに対応いただけることとなった。なお、この実現に向けて、NCDより外科系サブスペシャルティ領域への周知依頼があり、周知活動を行った。
- 4) NCD から「NCD データの商用利用に関してのご意見についてのお伺い—NCD データを商用利用に活用することに対する是非について」、及び「脳死ドナー手術の登録の方針についてのお伺い」の依頼があり、対応した。

資料 1

令和 3 年 9 月 13 日

一般社団法人 National Clinical Database
代表理事 瀬戸 泰之 殿

一般社団法人日本外科学会
理事長 森 正 樹
同 NCD 連絡委員会
委員長 湊 谷 謙 司

ご検討のお願い

本学会の重要な責務である外科専門医制度ならびに外科手術実施状況の把握に対しての、貴データベースの多大なる貢献に感謝申し上げます。

貴データベースの信頼性の高い運用のおかげをもちまして、本学会員は専門医申請などで大きなメリットを享受させて頂いております。

しかし、昨今 NCD 以外にもがん登録、臨床研究など診療情報の登録が必要となることが増え、診療現場での負担となってきました。これらの登録の元となる診療情報からの抽出するデータをできるだけ一元化し、現場での負担を減らす方法として多くの施設で貴データベースの症例アップロード機能利用が試みられています。

また学会発表等のため、院内の個々の診療科内でもデータベースとして症例をまとめる過程において、エクセル（CSV ファイル）などで運用されているケースが多く、貴データベースの症例アップロード機能の利用に転用できれば運用が広まると期待されます。

実際の貴データベースの症例アップロード機能利用に際して、本学会員より様々な問題点や要望が本学会あてに届いております。以下に、取りまとめた点について貴データベースでの検討、対応をお願いしたく要望させていただきます。

- ・症例の Web 登録（1-12 月）に合わせて、会員施設のデータ入力支援業務を目的とする（営利目的外）症例アップロード用 CRF の仕様を公開して頂きたい（現状は数ヶ月程度の遅れがあり、その間に電子カルテ内に蓄積された情報〈退院サマリー作成時期ごろに抽出された情報〉については、NCD 登録のアップロード時に調整が必要となり、現場の負担となっています）。
- ・症例アップロード用 CRF の選択項目リストがデータとして公開しておらず、電子カルテ内でのリスト作成に負担が大きい（コピー＆ペースト機能が利用できることで負担が軽減されます）。

貴データベースのみでは対応が難しく、学会間での調整などが必要なことがあれば本学会もできる限り協力させて頂きたいと考えております。貴データベース内でご検討が必要なこともあるかと存じますが、ご高配をお願い致します。

資料2

2021年11月1日

一般社団法人日本外科学会
理事長 森 正樹 様
同 NCD 連絡委員会
委員長 湊谷 謙司 様

一般社団法人 National Clinical Database
代表理事 瀬戸 泰之

検討結果について

日ごろより、弊法人の事業運営に多大なご支援とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和3年9月13日付で貴学会及び貴学会NCD連絡委員会からいただきました「ご検討のお願い」につきまして、弊法人運営委員会において検討し、下記のとおり決定しましたので、ご報告申し上げます。

1 (検討事項)

症例の Web 登録 (1-12 月) に合わせて、会員施設のデータ入力支援業務を目的とする (営利目的外) 症例アップロード用 CRF の仕様を公開して頂きたい。

(検討結果)

上記の検討事項につきまして、承知いたしました。

症例アップロード用 CRF の仕様、つまり、ファイルアップロードシステム CSV マニュアル (対象の CSV 項目や CSV 取込みノウハウが把握できるもの) は、毎年各参加施設へ提供しております。そのご提供時期については、ご指摘のとおり現在は症例の Web 登録画面の公開後数か月程度遅れてのご提供となっております。

CSV マニュアルは、症例の Web 登録の項目仕様を基に作成しており、各領域学会には次年度の項目仕様書のご提出は 6 月末までにご提出いただくようお願い申し上げますが、実際のご提出時期は各学会のご都合により遅れて提出いただくことがございます。また、項目仕様書を提出いただいた後にも、質の高いデータを収集するため

に、項目仕様の細部の調整を NCD と各領域学会が行うプロセスは不可欠であり、実際に症例の Web 登録の項目仕様が最終確定する時期は、多くの領域が 10 月~12 月頃になります。効率的な作業を実施するために全ての領域の仕様が確定した後、一斉に CSV マニュアルの作成に着手している都合上、現状、CSV マニュアルの公開時期が数か月程度の遅れとなっております。

そのため、CSV マニュアルの公開時期を症例の Web 登録と合わせることを実現するためには、現在 6 月末を提出期限としている次年度の項目仕様書のご提出を大幅に早めるか、もしくは 6 月末の提出期限を厳守いただいたうえで、その後の調整段階で大幅な変更を控えていただく必要がございます。各学会の皆様にご協力いただき、次年度仕様の調整及び確定を少しでも前倒しいただければ、その分早期にご提供することは可能であると考えます。

CSV マニュアルの早期ご提供は、社員学会の皆様方のご協力が不可欠となりますので、貴学会のみならず、外科系領域の他の社員学会におかれましてもご了解いただく必要があり、何卒ご配慮いただけますようよろしくお願い申し上げます。

2 (検討事項)

症例アップロード用 CRF の選択項目リストがデータとして公開しておらず、電子カルテ内でのリスト作成に負担が大きい(コピー&ペースト機能が利用できることで負担が軽減されます)。

(検討結果)

上記の検討事項につきまして、承知いたしました。

症例アップロード用 CRF の選択項目リストに対応するものとして、「CRF 記入の手引き」があり、各種 CRF とともに PDF 化し、コピー&ペースト機能利用不可等の編集制限をかけた上で、各参加施設へ提供しております。

NCD の CRF に関しまして、その著作権は各学術団体と NCD が共同で有していると理解しております。そのため、許可なく二次利用されないよう制限をかけているところでございます。

一方で、ユーザーの皆様にご負担をおかけしているのも事実です。今後は、ユーザーの皆様のご利便性向上のため、コピー&ペーストができるように PDF の編集制限を解除することとします。ただし、各種 CRF の利用は、原則として自施設内での利用に限っていただくことにいたします。

1) 一般社団法人 National Clinical Database (NCD)

代表理事 瀬戸 泰之

National Clinical Database (以下 NCD) は、2010 年に設立され、2011 年 1 月の症例から登録を開始し、事業を開始して 10 年が経過した。2015 年度より、登録を行っている施設会員から会費の支払いをお願いしている。なお、2018 年度から未納期間が合計 2 年間（連続・不連続問わず）の施設は、「NCD 施設会員資格」を喪失し、外科専門医制度において基幹施設又は連携施設になれないほか、個人医師による専門医申請の際に当該施設で実施された全症例（2011 年～現在まで）のデータが利用することができなくなる。

外科学会関連で登録された症例数は、2022 年 3 月 1 日時点で、2011 年が 1,172,262 件、2012 年が 1,278,902 件、2013 年が 1,567,079 件、2014 年が 1,626,873 件、2015 年が 1,718,333 件、2016 年が 1,785,343 件、2017 年が 1,828,946 件、2018 年が 1,830,656 件、2019 年が 1,859,982 件、2020 年が 1,782,819 件、累計 16,451,195 件である。また、過去に完了承認済みを 1 件以上登録した施設診療科数は、4965 施設・8779 診療科であり、有効ユーザー数は 46,923 人である。なお、2021 年分のデータ登録を 2022 年 4 月 6 日で締め切る予定である。

2021 年度事業報告書（案）、2022 年度事業計画書及び進行中の公的研究費案件一覧、データ利用研究の一覧（各領域ごと）については、次頁以降を参照のこと。

一般社団法人 National Clinical Database

2021 年度事業報告書（案）

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。**2021** 年度は、以下の事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、正確なデータ収集を図った。ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務の安定化を図った。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- がん登録の領域拡大を図った。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、**J-PCI**、小児外科等の領域で、データの集計・分析結果を施設診療科が確認できるフィードバック関連業務を行った。
- **DPC**・レセプト情報の集積システムの管理およびデータ利活用の研究を継続した。

（2）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体によるデータ利用研究や学術調査、各学会のアンニュアルレポート作成を支援した。
- データの質の検証業務に新たにリモート型を加え実施する。引き続き各領域でのデータ検証を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価等に寄与した。

（3）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続的に行った。
- 専門医制度上の基本領域以外の学術団体においても、準会員として **NCD** を通じた研究支援やデータベース連携を図った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後データベース調査を支援した。
- 各領域の学術総会において、**NCD** 関連のプログラム等での連携を行った。
- 電子カルテメーカーとの業務連携を強化し、院内情報システムの中に **NCD** 症例アップロード機能を連動させた。

（4）法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- セキュリティ、個人情報の保護、知的財産の管理を行うとともに、危機管理及び事業継続のための対策を講じた。
- データセンター内のサーバ管理環境や運用方針を見直した。
- 医療政策に資するエビデンスに基づいて、行政に提言を行い評価された（ロボット支援手術関連）。

以上

進行中の公的研究費案件一覧

確認日：2022年3月14日

(1) 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)

委託者	監修	内容	委託期間	領域
公立大学法人 福島県立医科大学	丸橋繁先生	「高齢者消化器がん手術における診療指針策定と、指針普及・人材育成を目指した協働型意思決定支援システムおよび病院評価プログラムの開発」 →システム設計・アプリ開発連携	・現在～2022年3月31日迄 ・2022年4月1日以降予定あり	・消化器外科

(2) AMED 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
「ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究」のもと

委託者	監修	内容	委託期間	領域
国立大学法人 東京大学	小池和彦先生 (建石良介先生)	「組織学的に診断されたアルコール性でない脂肪肝炎(non-ASH steatohepatitis)のregistry研究」 →事務代行を継続予定	・現在～2022年3月31日迄 ・2022年4月1日以降予定あり	・脂肪肝炎・消化器内科

(3) 厚労省肝炎対策予算

委託者	監修	内容	委託期間	領域
国立大学法人 東京大学	小池和彦先生	「肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究」 →①レジストリーの改修、②事務業務を継続予定	・現在～2022年3月31日迄 ・2022年4月1日以降予定あり	・肝癌

(4) 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)など

委託者	監修	内容	委託期間	領域
国立開発研究法人 国立国際医療研究センター 一般社団法人 日本肝癌研究会	國土典宏先生	「肝癌薬物療法のリアルワールドデータを活用したオールジャパン研究」に関する事務運用	・現在～2022年3月31日迄 ・2022年4月1日以降予定あり	・肝癌、AI研究開発

(5) 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

委託者	監修	内容	委託期間	領域
国立開発研究法人 国立国際医療研究センター 一般社団法人 日本胃癌学会	國土典宏先生	「全国胃癌登録を利用した術後化学療法最適化に関する研究のシステム運用」	・2022年1月～3月迄(更に4月～6月迄調整中)	・胃癌、AI研究開発

(6) 厚生労働省がん政策研究事業

委託者	監修	内容	委託期間	領域
国立大学法人 名古屋大学	小寺泰弘先生	「本邦における十二指腸癌に対する切除術式、リンパ節郭清範囲、周術期化学療法の実態と解剖学的部位別のリンパ節転移率に関する観察研究」に伴うシステム開発 →運用段階へ進む予定	・2022年中に予定あり	・消化器外科

(7) 厚生労働行政推進調査事業費補助金

委託者	監修	内容	委託期間	領域
慶應義塾大学(医学部循環器内科)	香坂俊先生	「弁膜症、狭心症等の循環器病診療の標準化・適正化に資する研究」業務委託	・2021年12月～2022年1月31日	・CVIT

学会名: 日本消化器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems	Medicine (Baltimore)	Published online 2015 Dec 11.
2013	日本消化器外科学会	今野 弘之	Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after eight gastroenterological procedures.	Surgery Today	First Online: 29 September 2016
2013	日本食道学会	北川 雄光	Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan	Annals of Surgical Oncology	First Online: 21 February 2017
2013	日本肝臓病学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 1 - Hepatectomy of more than one segment	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 17 March 2016
2013	日本肝臓病学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 2 - Pancreatoduodenectomy	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 19 March 2016
2013	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Higher incidence of pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy. Real-world evidence from a nationwide prospective cohort study.	Gastric Cancer	First Online: 08 September 2017
2013	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database	Surgical Endoscopy	First Online: 07 December 2017
2013	日本外科学会	瀬戸 泰之	Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes: a nationwide survey using a Japanese web-based database	Surgery Today	First Online: 12 August 2015
2014	日本消化器外科学会	太田 哲生	本邦の地域の医療需要を反映した専門医研修プログラムを作成する為の二次医療圏単位での医療の実態把握	日本消化器外科学会雑誌	J-STAGE公開日: 2016/11/22
2014	日本食道学会	岡部 寛	Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following oesophagectomy in Japan.	British Journal of Surgery	First published: 29 September 2016
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Annals of gastroenterological surgery	First published: 22 December 2017
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 09 February 2018
2014	日本肝臓病学会	宮崎 勝	Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from the National Clinical Database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 29 September 2016
2014	日本膵臓学会	下瀬川 徹	Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCD)	Pancreatology	Available online 16 July 2016.
2014	日本腹部救急医学会	平田 公一	A comparison of the surgical mortality due to colorectal perforation at different hospitals with data from 10,090 cases in the Japanese National Clinical Database	Medicine	Publication Date: January 2017
2015	日本消化器外科学会	森 正樹	Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastrointestinal cancer surgeries.	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
2016	日本胃癌学会	馬場 秀夫	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system.	Gastric Cancer	First Online: 09 October 2018
2016	日本胃癌学会	馬場 秀夫	Association of Surgeon and Hospital Volume with Postoperative Mortality after Total Gastrectomy for Gastric Cancer: Data from 71,307 Japanese Patients Collected from a Nationwide Web-based Data Entry System (胃全摘)	Gastric Cancer	Published: 09 October 2020
2016	日本内視鏡外科学会	比企 直樹	Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer. A multicenter prospective cohort study	Gastric Cancer	First Online: 11 December 2018
2016	日本消化器外科学会	後藤 満一	"Real-time" risk models of postoperative morbidity and mortality for liver transplants	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 02 November 2018
—	日本消化器外科学会	金治 新悟	Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan	Surgery Today	First Online: 07 November 2018
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database	Annals of Surgery	Publication Date: January 31, 2019
—	日本消化器外科学会	竹内 裕也	A risk model for esophagectomy using data of 5354 patients included in a Japanese nationwide web-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2014
—	日本消化器外科学会	渡邊 雅之	Total gastrectomy risk model: data from 20,011 Japanese patients in a nationwide internet-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: December 2014
—	日本消化器外科学会	栗田 信浩	Risk Model for Distal Gastrectomy When Treating Gastric Cancer on the Basis of Data From 33,917 Japanese Patients Collected Using a Nationwide Web-based Data Entry System.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2015
—	日本消化器外科学会	小林 宏寿	Risk model for right hemicolectomy based on 19,070 Japanese patients in the National Clinical Database.	Journal of Gastroenterology	First Online: 27 July 2013
—	日本消化器外科学会	松原 長秀	Mortality after common rectal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database.	Diseases of the Colon & Rectum	Publication Date: September 2014
—	日本消化器外科学会	晃城 明	Risk stratification of 7,732 hepatectomy cases in 2011 from the National Clinical Database for Japan.	Journal of the American College of Surgeons	Published online: November 18, 2013
—	日本消化器外科学会	木村 理	A pancreaticoduodenectomy risk model derived from 8575 cases from a national single-race population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreaticoduodenectomy.	Annals of Surgery	Publication Date: April 2014
—	日本消化器外科学会	中越 亨	Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: an initial report on the surgical and 30-day mortality.	Surgery Today	First Online: 18 September 2014

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
—	日本消化器外科学会	後藤 満一	National Clinical Database feedback implementation for quality improvement of cancer treatment in Japan: from good to great through transparency.	Surgery Today	First Online: 24 March 2015
—	日本消化器外科学会	菊池 寛利	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry.	Gastric Cancer	First Online: 11 March 2017
—	日本消化器外科学会	國崎 主税	Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities using a nationwide Japanese web-based database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer.	Gastric Cancer	First Online: 23 August 2016
—	日本消化器外科学会	吉田 卓弘	Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
—	日本消化器外科学会	渡邊 聡明	Prediction model for complications after low anterior resection based on data from 33,411 Japanese patients included in the National Clinical Database.	Surgery	Published online: January 30, 2017
—	日本消化器外科学会	横尾 英樹	Models predicting the risks of six life-threatening morbidities and bile leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan.	Medicine (Baltimore)	Published online 2016 Dec 9
—	日本消化器外科学会	青木 修一	Risk factors of serious postoperative complications after pancreaticoduodenectomy and risk calculators for predicting postoperative complications: a nationwide study of 17,564 patients in Japan.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 14 February 2017
—	日本消化器外科学会	佐藤 善一郎	Risk Models of Operative Morbidities in 16,930 Critically Ill Surgical Patients Based on a Japanese Nationwide Database.	Medicine (Baltimore)	Publication Date: July 2015
2014	日本胃癌学会	芳賀 克夫	Development and Validation of Grade-Based Prediction Models for Postoperative Morbidity in Gastric Cancer Resection using a Japanese Web-based Nationwide Registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 June 2019
2014	日本消化器外科学会	竹末 芳生	Risk calculator for predicting postoperative pneumonia after gastroenterological surgery based on a national Japanese database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 April 2019
2015	日本外科学会	土岐 祐一郎	Frequency and risk factors for venous thromboembolism after gastroenterological surgery based on the Japanese National Clinical Database (516,217 cases)	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 July 2019
2016	日本肝胆膵外科学会	窪田 敬一	Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 18 June 2019
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database".	Annals of Surgery	Publication Date: December 2019
2018	日本食道学会	本山 悟	Impact of certification status of the institute and surgeon on short-term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,732 patients from the National Clinical Database in Japan	Esophagus	First Online: 03 October 2019
2018	日本胃癌学会	井ノ口 幹人	Feasibility of laparoscopic gastrectomy for patients with poor physical status: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 22 July 2019
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database	Esophagus	Published: 12 April 2019
—	日本消化器外科学会	宇田川 晴司 (大倉 道)	Development of a model predicting the risk of eight major postoperative complications after esophagectomy based on 10,826 cases in the Japan National Clinical Database	Journal of Surgical Oncology	Accepted 27 November 2019
2016	日本膵臓学会	岡崎 和一	Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database	British Journal of Surgery	First published: 31 January 2020
2017	日本肝胆膵外科学会	田邊 稔	Safe dissemination of laparoscopic liver resection in 27,146 cases between 2011 and 2017 from the National Clinical Database of Japan	Annals of Surgery	2020 Mar 20(Epub ahead of print)
2017	日本肝胆膵外科学会	中村 雅史	Definition of the Objective Threshold of Pancreatoduodenectomy With Nationwide Data Systems	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 26 December 2019
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of adherence to board-certified surgeon systems and clinical practice guidelines on colon cancer surgical outcomes in Japan: A questionnaire survey of the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 07 April 2020
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and implementation of clinical practice guideline for pancreatic cancer on mortality of pancreaticoduodenectomy	Surgery Today	Published: 07 May 2020
2013	日本胃癌学会	円谷 彰	Preoperative risk factors for postoperative intra-abdominal infectious complication after gastrectomy for gastric cancer using a Japanese web-based nationwide database	Gastric Cancer	Published: 21 May 2020
2018	日本腹部救急医学会	星野 伸晃	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: a nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2019	日本内視鏡外科学会	松田 武	Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 01 August 2020
2017	日本内視鏡外科学会	赤木 智徳	Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by JSES for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the NCD registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 31 August 2020
2017	日本消化器外科学会	丸橋 繁	Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study	Annals of Surgery	October 15, 2020 - Volume Publish Ahead of Print
2018	日本肝胆膵外科学会	馬場 秀夫	Risk Factors for Bile Leakage: Latest Analysis of 10,102 Hepatectomies for Hepatocellular Carcinoma from the Japanese National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2020
2019	日本腹部救急医学会	山田 岳史	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2015	日本内視鏡外科学会	長谷川 博徳	Safety and Feasibility of Laparoscopic Surgery for Elderly Rectal Cancer Patients in Japan: a nationwide study	BJS Open	2020/10/17 submitted 2021/1/20 accepted

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2017	日本消化器外科学会	今野 弘之	Profiles of institutional departments affect operative outcomes of eight gastroenterological procedures	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 February 2021
2019	日本肝胆膵外科学会	花崎 和弘	Association of day of the week with mortality after elective right hemicolectomy for colon cancer: Case analysis from the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 15 January 2021
2019	日本食道学会	渡邊 雅之	Association between preoperative HbA1c levels and complications after esophagectomy: Analysis of 15 801 esophagectomies from the National Clinical Database in Japan	Annals of Surgery	2020/9/25 accepted
2018	日本腹部救急医学会	松岡 義	Antithrombotic drugs have a minimal effect on intraoperative blood loss during emergency surgery for generalized peritonitis: A nationwide retrospective cohort study in Japan	World Journal of Emergency Surgery	Published: 27 May 2021
2018	胆膵内視鏡外科学会	中村 雅史	Comparison of Outcomes Between Laparoscopic and Open Pancreatoduodenectomy Without Radical Lymphadenectomy: Results of Coarsened Exact Matching Analysis Using National Database Systems	Asian J Endosc Surg	First published: 16 May 2021
2019	日本消化器外科学会	竹内 裕也	Significance of the Glasgow Prognostic Score for Short-Term Surgical Outcomes: A Nationwide Survey Using a Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First Published: 21 March 2021
2013	日本消化器外科学会 Annual Report	今野 弘之	National Clinical Database(消化器外科領域)Annual Report 2011-2012	日本消化器外科学会雑誌	2013/12/1
2014	日本消化器外科学会 Annual Report	若林 剛	National Clinical Database(消化器外科領域)Annual Report 2014	日本消化器外科学会雑誌	2015/12/1
2015	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	National Clinical Database(消化器外科領域)Annual Report 2015	日本消化器外科学会雑誌	2017/2/1
2016	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2016	Annals of Gastroenterological Surgery	First published:23 November 2017
2017	日本消化器外科学会 Annual Report	長谷川 寛	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2017	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 May 2019
2018	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2018	Annals of Gastroenterological Surgery	First published:20 March 2020
2019	日本消化器外科学会 Annual Report	丸橋 繁	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2019	Annals of Gastroenterological Surgery	accept :25-Mar-2021
2020	日本内視鏡外科学会	絹笠 祐介	Outcomes of robot-assisted versus conventional laparoscopic low anterior resection in patients with rectal cancer: propensity-matched analysis of the National Clinical Database in Japan	British Journal of Surgery	Published: 23 September 2021
2020	日本内視鏡外科学会	宇山 一郎	Safe implementation of robotic gastrectomy for gastric cancer under the requirements for universal health insurance coverage: a retrospective cohort study using a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First published: 12 October 2021
2015	日本外科学会	長谷川 深	Association between age and short-term outcome of gastroenterological surgeries in older patients: An analysis using the National Clinical Database in Japan.	Langenbeck's Archives of Surgery/major reviewで改訂中(2021/2/24).	Published: 11 August 2021
2019	日本食道学会	竹内 裕也	Impact of Reconstruction Route on Postoperative Morbidity After Esophagectomy: Analysis of Esophagectomies in the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 September 2021
2019	日本消化器外科学会	西口 幸雄	Survey regarding gastrointestinal stoma construction and closure in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 November 2021
2020	日本腹部救急医学会	星野 伸晃	Laparoscopic surgery for acute diffuse peritonitis due to gastrointestinal perforation: a nationwide epidemiologic study using the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 13 December 2021
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for liver cancer on post-hepatectomy risk-adjusted mortality rate in Japan: A questionnaire survey of departments registered with the National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 27 May 2021
2019	日本肝胆膵外科学会	花崎 和弘	Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2021

学会名：日本心臓血管外科手術データベース機構

申請年度	申請団体	研究性著者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	梶足 孝也	ダウン症候群に伴う先天性心疾患に対する外科治療成績	Circulation Journal The Society of Thoracic Surgeons (STS) 53rd Annual Meeting 2017	2017 Sep 12. doi: 10.1253/circj.CJ-17-0483. Jan. 2017; Houston, TX
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	植木 力	低左心機能患者におけるOPCABとOn-pump CABGの比較検討	第45回日本心臓血管外科学会学術総会 American Association for Thoracic Surgery (AATS) 95th Annual Meeting 2015	2015年2月(京都) Apr. 2015; Seattle, Washington
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 孝	大動脈弁温存基部置換術の全国集計	第43回日本血管外科学会学術総会 第58回 関西胸部外科学会学術集会	2015年5月(神奈川) 2015年6月(岡山)
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮入 剛	大動脈ステントグラフト挿入後の大動脈解離症例の検討	第45回日本血管外科学会学術総会 The Annals of Thoracic Surgery	2015年5月(広島) 2018 May; 105(5): 1392-1396. doi: 10.1007/s11748-017-0785-x.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 孝	非僧帽弁手術における心房細動に対する外科的肺静脈隔離術の有効性	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2017 May 23. doi: 10.1007/s11748-017-0785-x.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	胸部大動脈瘤手術における慢性閉塞性肺疾患の影響	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Apr 1; 51(4): 761-766.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	開心術後の大動脈狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績および手術リスク因子の検討	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Feb 1; 51(2): 347-353
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	植木 力	冠動脈インターベンション既往が冠動脈バイパス手術の術後成績に与える影響の検討	第68回日本胸部外科学会定期学術集会 The Society of Thoracic Surgeons (STS) 92nd Annual Meeting The Annals of Thoracic Surgery	2015年10月(神戸) 2016; Phoenix, Arizona 2017 Jul; 104(1): 56-61
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	OFF-PUMP CABGとON-PUMP CABGの術後早中期成績の比較	29th European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting	Oct. 2015; Amsterdam, The Netherlands
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	各慢性腎不全期におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有用性の検討	第46回日本心臓血管外科学会学術総会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016年2月(名古屋) 2018 Apr 12. pii: S0022-522X(18)30934-6
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮田 裕章	医療機器の市販後における使用成績評価の質及び信頼性の確保のための要件等に関する研究(厚生労働科学研究委託業務)	32nd International Conference on Pharmacopendology and Therapeutic Risk Management	Aug. 2016; Dublin, Ireland
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	心臓血管外科手術における出血量の予測因子について	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia	2017 Oct 13. pii: S1053-0770(17)30802-9
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index and Albumin on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients	第30回日本冠疾患学会学術集会 American Heart Association (AHA) 2017 J Thorac Cardiovasc Surg	2016年12月(東京) Nov. 2017; Anaheim, California 2019 Sep 28.
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 義夫	急性肺塞症に対する外科治療の日本の現状	Circulation Journal 第47回日本心臓血管外科学会学術総会	2018 Jun 27. doi: 10.1253/circj.CJ-18-0371. 2017年2月(東京)
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	北川哲也	成人先天性心疾患の外科治療に関する研究	第22回日本成人先天性心疾患学会ジョイントシンポジウム 日本心臓血管外科学会	2020年1月(東京) 2020
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	杉本晃一	単心室における房室弁置換術の遠隔期成績の検討	31st European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	Oct. 2017; Vienna, Austria 2018 Dec 1; 27(6): 895-900
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	奥庭 了	心室中隔欠損症に対して広く行われている外科的閉鎖術に際して、低体重の術後経過への影響を検討する	American Heart Association (AHA) 2018	Nov. 10, 2018
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂口 元一	心筋梗塞後心室中隔穿孔の周術期成績の検討	第47回日本心臓血管外科学会学術総会 Circ J	2017年2月(東京) 2019 Sep 11. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0593.
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	中野 清治	本邦における再開心術(人工弁置換術)	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 第72回日本胸部外科学会定期学術集会	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 00 (2020) 1-9 2019年11月
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	阿部 知伸	急性A型大動脈解離の手術成績、患者背景の経時的な推移	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery, ezz323
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	徳田碩之	本邦における大動脈弁手術における患者背景の推移と手術成績の解析	第71回日本胸部外科学会定期学術集会 Circulation Journal	2018年10月(東京) doi: 10.1253/circj.CJ-19-0674 2020 Volume 84 Issue 2
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	櫻岡 緑	Surveillance of AF Surgery in Asia-Pacific Region	8th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2016	Oct. 2016, Seoul
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	西 宏之	右小開胸僧帽弁手術の有用性および安全性の検討 ~本邦におけるリスクファクターの解析~	第70回日本胸部外科学術総会演題登録 第71回日本胸部外科学術総会演題登録 Which Patients Are Candidates for Minimally Invasive Mitral Valve Surgery? - Establishment of Risk Calculators Using National Clinical Database.	2017年10月(岡山) 2018年10月(東京) Circ J. 2019 Jul; 83(7): 1674-1681. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0175. Epub 2019 Jun 29

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	橋本 力	オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析	The effect of hospital and surgeon procedures volume on incidence of intraoperative conversion during off-pump coronary artery bypass grafting American Association for Thoracic Surgery (AATS)	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery 8& 8&-8& © 2020
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	低リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients American Association for Thoracic Surgery (AATS)	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 Circulation Journal doi: 10.1253/circ.j. CJ-20-0032 2020 Volume 84 Issue 9 Pages 1599-1604
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jun 25; doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	Circulation Journal American Association for Thoracic Surgery (AATS)	Circulation Journal, 2020 Aug 25 doi: 10.1253/circ.j. CJ-20-0032 99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	正井 崇史	本邦における透視大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績	Circulation Journal	Circulation Journal, 2020 Jul 22 doi: 10.1253/circ.j. CJ-20-0042
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jun 25; doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	中等度及び高リスク大動脈弁置換術症例の成績と施設間差の検討	Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients American Association for Thoracic Surgery (AATS)	99th Annual Meeting Toronto, Canada 2019 Circulation Journal, 2020 Aug 25 doi: 10.1253/circ.j. CJ-20-0032
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における透視大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績	Circulation Journal	Circulation Journal, 2020 Jul 22 doi: 10.1253/circ.j. CJ-20-0042
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 巖夫	慢性腎機能障害が弓部大動脈手術成績に与える影響についての検討	34th EACTS Annual Meeting European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2020年10月 1-8 doi:10.1093/ejcts/ezab252
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	中井 真尚	胸部心臓血管外科領域におけるSSI発生の現状とその影響	第32回日本外科感染症学会総会学術集会 日本外科感染症学会雑誌	2019年11月(岐阜) 17(2): 54-59, 2021.
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients Part3: Thoracic aortic surgery	J Thorac Cardiovasc Surg	2020 Aug;160(2):409-420.e14. doi: 10.1016/j.jtcvs.2019.07.048 Epub 2019 Sep 28.
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	井出 雄二郎	SPシント手術が、機能的単心室患者の生命予後に与える危険因子の同定	34th EACTS Annual Meeting	2020年10月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	太田教授	動脈管治癒戦略における staged repair の有用性	American Association for Thoracic Surgery (AATS) 100th Annual Meeting 34th EACTS Annual Meeting	NY, USA 2020 2020年10月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮田裕章	時空因子の複合的な効果は急性大動脈症候群の手術例の予後に及ぼす影響	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	DOI: https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2020.03.043
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	志水 秀行	東日本大震災前後における先天性心疾患手術数の動向についての調査	Journal of the American Heart Association	Journal of the American Heart Association 10.1161/JAHA.119.014787
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	日本における 急性A型大動脈解離の治療	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 2020 Nov 11
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	平田 康彦	全国および東京都における重症先天性心疾患の胎児診断率と予後に関する網羅的調査 (JOAS調査分)	15th International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology Journal of Cardiology	2019年 https://doi.org/10.1016/j.jic.2020.03.013 (Accepted 4 August 2021)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of thoracic aortic surgery in 4707 cases from a nationwide single-race population through a web-based data entry system the first report of 30-day and 30-day operative outcome risk models for thoracic aortic surgery.	Circulation	Circulation, 2008 Sep 30; 118(14 Suppl): S153-9. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.107.756484
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	First report on 30-day and operative mortality in risk model of isolated coronary artery bypass grafting in Japan.	Ann Thorac Surg	Ann Thorac Surg, 2008 Dec; 86(6): 1866-72. doi: 10.1016/j.athoracsurg.2008.08.001
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of valve surgery in Japan using the Japan Adult Cardiovascular Surgery Database.	J Heart Valve Dis	J Heart Valve Dis, 2010 Nov; 19(6): 684-91.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk models including high-risk cardiovascular procedures: clinical predictors of mortality and morbidity.	Eur J Cardiothorac Surg	Eur J Cardiothorac Surg, 2011 May; 39(5): 667-74. doi: 10.1016/j.ejcts.2010.08.050 Epub 2010 Nov 2
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Effect of benchmarking projects on outcomes of coronary artery bypass graft surgery: challenges and prospects regarding the quality improvement initiative.	J Thorac Cardiovasc Surg	J Thorac Cardiovasc Surg, 2012 Jun; 145(6): 1364-9. doi: 10.1016/j.jtcvs.2011.07.010
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Operative mortality and complication risk model for all major cardiovascular operations in Japan.	Ann Thorac Surg	2015 Jan; 99(1): 130-9. doi: 10.1016/j.athoracsurg.2014.07.038. Epub 2014 Nov 6.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Quality improvement in cardiovascular surgery: results of a surgical quality improvement programme using a nationwide clinical database and database-driven site visits in Japan.	BMJ Qual Saf.	2019
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Development of Bayesian Mortality Categories for Congenital Cardiac Surgery in Japan	The Annals of Thoracic Surgery.	2020 Sep 16
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における心臓血管外科手術の現状: 2015年、2018年の日本心臓血管外科手術データベースの検討	日本心臓血管外科学会雑誌	Vol. 48, No. 1 January 2019 P1-24

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 1-congenital heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jul 20. doi: 10.1007/s11748-019-01160-0.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current Status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 2-isolated coronary artery bypass grafting surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jun 29. doi: 10.1007/s11748-019-01162-y.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Correction to: Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016, a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3-Valvular heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Aug 5. doi: 10.1007/s11748-019-01178-4.
	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: analysis of data from Japan Cardiovascular Surgery Database. 4-Thoracic aortic surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jul 16. doi: 10.1007/s11748-019-01163-x.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)からの報告 1.先天性心疾患手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 151-154
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)からの報告 2.単独冠動脈バイパス手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 155-159
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)からの報告 3.心臓弁膜症手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 160-166
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD)からの報告 4.胸部大動脈手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 169-179
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	OAG in NID/JAOSD	Nihon Rinsho	2016 Jun 20; 74 Suppl 4 Pt 1: 446-51. Japanese.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Long-term results of bilateral pulmonary artery banding versus primary Norwood procedure	Pediatr Cardiol	Pediatr Cardiol. 2018 Jan; 39(1): 111-119
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Procedure- and Hospital-Level Variation of Deep Sternal Wound Infection on Front	Ann Thorac Surg.	2020 Feb; 109(2): 547-554. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.05.076. Epub 2019 Jul 20
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database 2017-2018. 1. Congenital heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2020
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Japan cardiovascular surgery database 2. Isolated coronary artery bypass surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2020
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3. Valvular heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2020
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 4. Thoracic aortic surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2020
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Audit-Based Quality Validation of the Japan Cardiovascular Surgery Database	Circulation Journal	2021 September 25 Issue 11 Pages 2014-2018 doi: 10.1253/circj.CJ-21-0444

学会名: 日本心臓血管外科手術データベース機構、日本心臓血管インターベンション治療学会 共同研究

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構 日本心臓血管インターベンション治療学会	—	施設内OAGおよびPCI症例数対比の検討	Journal of Clinical Medicine	—

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本小児外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2011-2012.	日本小児外科学会雑誌	52: 1350-1359, 2016
2018 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2013-2014	日本小児外科学会雑誌	54: 314-335, 2018
2019 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2015-2016	日本小児外科学会雑誌	55: 298-303, 2019
2020 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2017-2018	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772, 2021
2021 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2019	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772, 2021
2016	日本小児外科学会	藤代 準	Abdominal Drainage at Appendectomy for Complicated Appendicitis in Children: A Propensity-matched Comparative Study	Annals of Surgery	274: e599-e604, 2021.
2017	日本小児外科学会	黒井 慶太	Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database-Pediatric of Japan	Journal of Pediatric Surgery	55: 2064-2070, 2020
2017	日本小児外科学会	藤代 準	Laparoscopic Versus Open Appendectomy for Acute Appendicitis in Children: A National of Retrospective Study on Postoperative Outcomes	Journal of Gastrointestinal Surgery	25: 1036-1044, 2021

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本呼吸器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2019	日本呼吸器外科学会	新谷 康	A risk model for prolonged air leak after lobectomy using the National Clinical Database in Japan	Surgery Today.	2021 May 17 DOI: 10.1007/s00595-021-02300-x
2019	日本呼吸器外科学会	橋本 昌樹	Japanese Current Status of Curative-Intent Surgery for Malignant Pleural Mesothelioma	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Apr 27 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.04.042
2017	日本呼吸器外科学会	田中 雄悟	Preoperative cumulative smoking dose on lung cancer surgery in a Japanese nationwide database	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Feb 15 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.01.055
2017	日本呼吸器外科学会	宮崎 拓郎	Certified thoracic surgeons in Japan: a survey of risk-adjusted mortality in lung resection by a national database	Surgery Today.	2021 Jan 30 DOI: 10.1007/s00595-021-02227-3
2016	日本呼吸器外科学会	池田 徳彦	Current status of surgery for clinical stage IA lung cancer in Japan: analysis of the national clinical database	Surgery Today.	Published: 05 July 2020 DOI: 10.1007/s00595-020-02063-x
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2018 Oct. 16. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78,594 patients during 2014-2015.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Dec 1;52(6):1182-1189. doi: 10.1093/ejcts/ezx190.
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Development of an annually updated Japanese national clinical database for chest surgery in 2014.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016 Oct; 64(10): 569-76. doi: 10.1007/s11748-016-0897-1.

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本心臓血管インターベンション治療学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	山地杏平	Relation of ST-Segment Elevation Myocardial Infarction to Daily Ambient Temperature and Air Pollutant Levels in a Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15; 119(6): 872-880.
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes of Women Versus Men with Non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention (From the Japanese Nationwide Registry)	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15; 119(6): 826-831.
2016	日本心臓血管インターベンション治療学会	坂倉建一	Incidence and Determinants of Complications in Rotational Atherectomy: Insights From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	Circulation: Cardiovascular Interventions	2016 Nov; 9(11): pii: e004278.
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	久保俊介	In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome With Cardiogenic Shock (From a Japanese Nationwide Registry)	Am J Cardiol	2019 May 15; 123(10): 1595-160
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Elderly Patients, Including 10 628 Nonagenarians: Insights From a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2019 Mar 5; 8(5): e011183
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	秋田敬太郎	Impact of reduced-dose prasugrel vs. standard-dose clopidogrel on in-hospital outcomes of percutaneous coronary intervention in 62 737 patients with acute coronary syndromes: a nationwide registry study in Japan	Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother	2020 Jul 1; 6(4): 231-238
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	大野洋平	Incidence and In-Hospital Outcomes of Patients Presenting With Stent Thrombosis (From the Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry)	Am J Cardiol	2020 Mar 1; 125(5): 720-726
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Association of the Hemoglobin to Serum Creatinine Ratio with In-Hospital Adverse Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention among Non-Dialysis Patients: Insights From a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Clin Med	2020 Nov 10; 9(11): 3612
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	石原隆夫	Impact of peripheral artery disease on short-term outcomes after percutaneous coronary intervention: A report from Japanese nationwide registry	PLoS One	2020 Oct 6; 15(10): e0240095
2018	日本心臓血管インターベンション治療学会	相川忠夫	Procedural Volume and Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Unprotected Left Main Coronary Artery Disease - Report From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2020 May 5; 9(9): e015404
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤野充明	Contemporary use and trends in percutaneous coronary intervention in Japan: an outline of the J-PCI registry	Cardiovasc Interv Ther	2020 Jul 1; 35(3): 218-226
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	藤井敏晴	Post-interventional adverse event risk by vascular access site among patients with acute coronary syndrome in Japan: observational analysis with a national registry J-PCI database	Cardiovasc Interv Ther	2019 Oct; 34(4): 297-304
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	高原充佳	Diabetes mellitus and other cardiovascular risk factors in lower-extremity peripheral artery disease versus coronary artery disease: an analysis of 1,121,359 cases from the nationwide databases	Cardiovasc Diabetol	2019 Nov 15; 18(1): 155
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	香坂俊	Outcome of Percutaneous Coronary Intervention in Relation to the Institutional Volume of Coronary Artery Bypass Surgery	J Clin Med	2020 Apr 27; 9(5): 1267
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Risk stratification model for in-hospital death in patients undergoing percutaneous coronary intervention: a nationwide retrospective cohort study in Japan	BMJ Open	2019 May 22; 9(5): e026683
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Comparative Trends in Percutaneous Coronary Intervention in Japan and the United States, 2013 to 2017	J Am Coll Cardiol	2020 Sep 15; 76(11): 1328-1340
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	高原充佳	Presentation Pattern of Lower Extremity Endovascular Intervention versus Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb	2020 Aug 1; 27(8): 761-768
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	山地杏平	Population Density Analysis of Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment-Elevation Myocardial Infarction in Japan	J Am Heart Assoc	2020 Aug 4; 9(15): e016952

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2017	日本心臓血管インターベンション治療学会	猪原拓	Impact of Institutional and Operator Volume on Short-Term Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention: A Report From the Japanese Nationwide Registry	JACC Cardiovasc Interv	2017 May 8; 10(9): 918-927
2019	日本心臓血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	An overview of percutaneous coronary intervention in dialysis patients: Insights from a Japanese nationwide registry	Catheter Cardiovasc Interv	2019 Jul 1; 94(1): E1-E8
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	辻村卓也	In-Hospital Outcomes after Endovascular Therapy for Acute Limb Ischemia: A Report from a Japanese Nationwide Registry [J-EVT Registry]	J Atheroscler Thromb	2020 Nov 20.
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	飯田修	Impact of Institutional Volume on Critical In-Hospital Complications Adjusted for Patient- and Limb-Related Characteristics: An Analysis of a Nationwide Japanese Registry of Endovascular Interventions for PAD	J Endovasc Ther	2020 Oct; 27(5): 739-748
2020	日本心臓血管インターベンション治療学会	大塚祐輔	In-hospital outcomes and usage of embolic protection devices in percutaneous coronary intervention for coronary artery bypass grafts: Insights from a Japanese nationwide registry	Catheter Cardiovasc Interv	2021 Apr 16.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤山裕一	Variation in in-hospital mortality and its association with percutaneous coronary intervention-related bleeding complications: A report from nationwide registry in Japan	PLoS One	2021 Dec 13; 16(12): e0261371.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	伊藤 剛	Effect of Procedural Volume on In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Chronic Kidney Disease (From the Japanese National Clinical Data [J-PCI Registry])	Am J Cardiol	2022 Feb 15; 165: 12-18.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	菅月 隼	Characteristics and in-hospital outcomes of patients undergoing balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: a time-trend analysis from the Japanese nationwide registry	Open Heart	2021 Sep; 8(2): e001721.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	村里嘉信	Percutaneous coronary intervention in side branch coronary arteries: Insights from the Japanese nationwide registry	Int J Cardiol Heart Vasc	2021 Aug 18; 36: 100856.
2021	日本心臓血管インターベンション治療学会	澤野充明	One-Year Outcome After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome - An Analysis of 20,042 Patients From a Japanese Nationwide Registry	Circ J	2021 Sep 24; 85(10): 1756-1767.
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	安藤博彦	Japanese Nationwide PCI (J-PCI) Registry Annual Report 2019: patient demographics and in-hospital outcomes	Cardiovasc Interv Ther	2022 Jan 12; 1-5.
2022	日本心臓血管インターベンション治療学会	音羽勘一	One-year Outcome after Percutaneous Coronary Intervention in Nonagenarians: Insights from the J-PCI OUTCOME Registry	Am Heart J	2022 Jan 8; S0002-8703(22) 00004-7

アナウンスの詳細は下記の学会HPよりご確認ください
URL: http://www.cvit.jp/regist/data_manager/

26. 総務委員会

委員長 池田 徳彦

1. 会費収納方法の見直しについて

これまでの本学会の会費収納方法は、①郵便振込払い、②自動引落の2種に限定されていたが、令和4(2022)年度から、③コンビニ決済を追加することとした。

なお、さらにクレジットカード決済に対応するためには、本学会の会員管理システムの改修が必要となるので、その旨の要望を所管の情報・広報委員会に申し入れた。

2. 準会員制度について

令和3(2021)年度末時点で2名の非医師が在会しているが、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアが進むなどにつれて、今後はさらに非医師の入会希望が増える可能性がある。学術的な活動に限定して、代議員の選挙権/被選挙権は有さない「準会員(仮称)」の制度を設ける方針とし、詳細は顧問弁護士友相談の上で、継続検討中である。

3. 事務所の移転について

令和3(2021)年6月25日付で、事務所を「世界貿易センタービルディング南館」に移転した。

4. 事務所会議室の貸与について

令和3(2021)年度はコロナ禍および事務所移転のため、他学会・研究会などへの事務所会議室の貸与を取り止めていたが、当面の人数制限は24名以下とした上で、貸与を再開した(1時間あたり6,500円; 税抜)。

5. 事務局職員のリモートワーク化について

専門家によるコンサルテーションを踏まえ、就業規則を変更すると共に、新たにリモートワーク規定と「フレックスタイム制に関する労使協定書」を作成した上で、事務局のリモートワークを開始した。

27. 将来計画委員会

委員長 森 正樹

引き続き「外科専門医のインセンティブ」「訴訟対策」「学術集会の在り方」「国際化推進」の各ワーキンググループ(WG)に分かれて、それぞれで重要課題の検討を行った。

1) 「外科専門医のインセンティブ」ワーキンググループ

リーダー 碓氷 章彦

「外科専門医のインセンティブ」WGでは、サブスペシャリティ8学会を対象に意識調査を実施したとこ

ろ、ほぼすべての学会で外科医のインセンティブが必要であると考えていることが判ったので、各サブスペシヤルティ学会の代表者にも参加してもらって合同委員会を開催した。

そこでの検討内容も踏まえて、今後は時間外手当やインセンティブを外科医に還元するように求める旨の連名の要望書を作成し、専門研修プログラムの施設や、厚生労働省などに働き掛けていくこととした。

2) 「訴訟対策」ワーキンググループ

リーダー 平野 聡

「訴訟対策」WGは、外科医が委縮することなく安心して手術ができる体制を構築することを目的として、産科医療補償制度に倣った、日本外科学会独自の無過失補償制度（No-Fault Compensation：NFC）の可能性を検討してきたが、保険料の基となる原資の問題が極めて大きく、学会独自の制度設計は実現困難と判断して国会議員や厚生労働省、さらには日本医師会や日本医療安全調査機構、患者団体の代表などとも協議を続け、社会インフラとしての無過失補償制度の可能性を模索したが、保険者からの同意形成が極めて困難であることが判明した。

しかしながら、代議員を対象として、医事紛争や外科医療補償制度などについてのWebアンケートを実施したところ、8割以上が手術患者の予期しない死亡事例を経験し、約9割が外科医療補償制度を望んでいることなどが判明したため、引き続き外科医が安心して医療を提供できる環境整備について検討を進めていくこととした。

なお、これまでの「訴訟対策」WGの活動の詳細を取りまとめて、「日本外科学会雑誌」で報告予定である。

3) 「学術集会の在り方」ワーキンググループ

リーダー 中村 雅史

これまで「学術集会の在り方」WGでは、外科系の各サブスペシヤルティ学会も共に一堂に会して、それぞれの学術集会も合同に行うという“Surgical Week”の構想について検討を進めてきたが、コロナ禍で多くの学会がWeb形式やハイブリッド形式で学術集会を開催することになり、状況が大きく変化した。

実際、第120回と、第121回の定期学術集会のそれぞれの参加者を対象としたアンケートの結果を比較したところ、オンラインによる参加や、ハイブリッド形式の開催に対する賛成意見が増えると共に、ハイブリッド形式の開催であれば、参加に負担を感じたり、回数が多いと感じたりする意見が減少していることが判った。また、本学会とサブスペシヤルティ学会の学術集会の内容に差がないという意見も大幅に増えていた。さらに、運営にあたっては配信設備などに大きなコストが掛かっていることも新たに判ってきた。

そこで、“Surgical Week”の構想ではなく、新たに「学会配信などに関するインフラを共有し、学術集会の内容も共有して、そこで話し合えるような、学会運営に関する質的な課題を解決することを目的とした外科系学会各位が社員となる法人を設立すること」という新たなコンセプトを提案することとした。

そして、このコンセプトについて、改めて各サブスペシヤルティ学会の理事長などとも協議を行っているところである。

4) 「国際化推進」ワーキンググループ

リーダー 大 木 隆 生

「国際化推進」WGでは、インドやアフリカ諸国などにも国際交流の輪を広げるために検討と交渉を重ねてきたが、コロナ禍のため、残念ながら中断を余儀なくされている状況である。

28. 選挙管理・選挙制度検討委員会

委員長 大 塚 将 之

1. 選挙施行および当選者の決定の件

役員・代議員等選任規則（以下、選任規則）に従い、令和4年1月15日に代議員選挙を実施し、投票対象の第6区と第22区の2選挙区で厳正に開票作業を行った。その結果、同日付で345名の代議員が選出された（欠員5名；任期は令和6年1月15日まで）。

なお、今回の選挙より立候補および投票をオンライン化した。

2. 代議員選挙の見直しの件

現在の内閣府公益認定等委員会の指導勧告範囲内で、一定数の女性代議員を確保する方策について継続審議事項となっていたが、各種のデータなどを基に検討を重ね、資料1の答申書を理事会に提出した。

資料 1

令和 4 年 1 月 15 日

一般社団法人日本外科学会
理事長 森 正樹 殿

選挙管理・選挙制度検討委員会
委員長 大塚 将之

長年に亘り「女性の代議員を増やすための方策を採ることについて」の諮問を受けておりましたが、このたび、本委員会としての結論を下記のとおり答申いたします。理事会の最終的なご議論に資すれば幸いです。

記

本学会の法人格は民法上の法人からの組織変更であり、内閣府公益認定等委員会の審査を経て一般社団法人になっているという経緯から、公益法人に準じて社員資格は平等である必要があり、社員である代議員を選出する会員の資格・権利も、原則的に平等であることが求められます。つまり、会費の納入という義務を果たした正会員は、年齢や性別などにかかわらず、等しく代議員の選挙権・被選挙権を有することになります。

この原則につきまして、改めて所管の内閣府公益認定等委員会、および本学会の顧問弁護士に照会しましたが、現時点で解釈に変更などは生じていないということです。

このため、本学会の代議員に女性枠などを設けたり、選挙に依らずに選任したりすることなどはできないということになります。

そこで、あくまでもこの原則の範囲内で、選挙制度の見直しが行えるかどうかを検討してまいりました。そして、男女別に代議員の定数を設定する案、選挙区を地域別に集約する案、および選挙区分を地域別から専門領域別に変更する案などを出し、それぞれの具体的なシミュレーションも行ってみました。しかしながら、いずれの案も確実性の面や、それぞれの案に伴う種々の問題点から、実効性に乏しいものでありました。

一方で、データを解析しますと、本学会の代議員に初めて立候補するのは平均 50 歳代前半で、その年代の会員の男女比は概ね 15 : 1 です。しかしながら、会員全体の男女比は概ね 8 : 1 で、40 歳代では概ね 6 : 1、30 歳代では概ね 4 : 1 となります。つまり、本学会の会員は若年層になるほど女性の比率が増えており、いずれ自ずと代議員の女性比率も増えるものと推察されます。実際のところ、平成 27 年度の女性の立候補者数は 1 名でしたが、平成 29 年度は 2 名、令和元年度は 3 名、そして令和 3 年度は 6 名と、年々漸増しており、さらに凡そ 5 年後には大幅に増加することも想定されます。

したがって、**内閣府公益認定等委員会の現在の指導勧告の解釈が変わらない限り、確実性に欠ける選挙制度の見直しを行うよりも、現行の公平性の保たれた制度のまま、将来的な女性代議員の自然増を待つことでやむを得ないものとする**ことを、まずは本委員会の答申といたします。

ただし、現在の代議員総数の350名は、約40,000名の会員の0.9%で、1%にも満たないというのは些か少なく、総数を幾分か増やすことで、女性会員が少しでも代議員に立候補し易い環境をつくることが望ましい旨を付記いたします。

その上で、時間をかけることなく、即効性のある対応が必要であるならば、いくつかの見直し案のうち、**会員数の按分により決定した各選挙区の定数を、さらに当該選挙区内の男女比で按分して、男女別の定数を算出し、有権者には男女1票ずつを投票してもらう方法を探ることを**、併記の答申といたします。

つまり、代議員の総定数を現行の選挙区毎の有権者数で按分した後に、さらに男女別で按分して、有権者はそれぞれ1名ずつを選ぶという方法です。しかし、この方法の場合、現時点では多くの選挙区で女性の定数が1名未満となってしまうため、試算の結果、総定数を現在の350名から、少なくとも450名～500名程度まで増員する必要があります。ただし、現在の25の選挙区を地方別ブロック単位などに再編成すれば、定員増は避け得る可能性があることを申し添えます。

なお、過年度の本委員会からは、**「理事会の判断により代議員でなくても理事会や社員総会に参加して意見を述べることも可能なので（社員総会での議決権はなし）、当面は女性会員や非大学関係者の会員などの若干名にも、理事会や社員総会に参加してもらえるように配慮してもらいたい」**旨を提案しておりますが、この旨も改めて理事会でもご検討いただくと共に、毎回の代議員選挙で必ず生じている若干名の欠員の取扱いについても併せてご検討いただきたく存じます。

以 上